

委員会行政視察報告書

委員会名	厚生文教常任委員会
出席委員等	委員（9人） 堀口 武視 委員長 澁谷 昌子 副委員長 小山 広明 委員 田畑 仁 委員 梶本 茂躰 委員 河部 優 委員 中尾 広城 委員 成田 政彦 委員 松本 雪美 委員 委員外議員（8人） 古谷 公俊 議員 谷 展和 議員 岡田 好子 議員 大森 和夫 議員 和気 信子 議員 竹田 光良 議員 森 裕文 議員 南 良徳 議員 随行（5人） 市民生活環境部・・・知久 孝 部長 本田 正弥 次長 宮内 資博 課長 議会事務局・・・・・・真鍋 康之 局長 川口 哲生 主幹
実施年月日	平成26年1月27日（月）
視察先	愛知県一宮市
視察項目	一宮市斎場について

視察内容

愛知県一宮市環境部 武藤正美 部長から歓迎の挨拶を受けた後、事前に送付していた調査事項に従い、担当者より説明を受ける。

1、一宮市の概要について

平成17年4月1日、一宮市、尾西市、木曽川町が合併し、新生「一宮市」が誕生する。人口、約37万人、世帯数、約15万世帯、面積、113.91平方キロメートル（東西約15.3km、南北11.3km）日本のほぼ中央に位置する愛知県の北西部にあり、名古屋市と岐阜市の中間にあって、木曽の源流と温和な気候、風土に恵まれた平坦地となっている。

2、一宮斎場の概要について（建設施設、施設維持管理）

合併による火葬件数の増加や高齢化に伴う火葬需要の増加に対応するため、昭和38年の建設以来、約50年が経過し施設の老朽化が激しい旧一宮斎場を建替えることにより、新しい施設を整備する。

斎場の整備（建設）については、PFI方式を導入することにより、民間活力によるサービス水準の向上並びに財政支出の削減及び効率化を図っている。

工事費は、約23億円（旧施設の解体工事含む）、規模・構造は、鉄筋コンクリート造地上2階建て、敷地面積11690.75㎡、建物延床面積2776.25㎡。

3、火葬炉について（炉設備及び炉保守管理の概要）

火葬炉13炉（大型炉1炉含む、※一日最大24件）、動物炉1炉、汚物炉1炉を設置。

維持管理については、日常点検、定期点検（法定点検含む）、臨時点検を実施するとともに、PDCAサイクルの構築により、業務品質の向上を図っている。さらに、保守管理記録の管理と一宮市への報告を徹底している。

4、運營業務について（施設運営の概要）

斎場の営業時間（開場時間）は、午前8時30分から午後5時15分、1月1日及び友引

日を休業日となっており、火葬の窓口受付は、動物・汚物も含めて午前9時から午後3時までとなっている。

なお、市民からの電話の問い合わせに24時間対応するために、コールセンターを設置し、コールセンターで受付けた内容については、翌日、一宮斎場に報告することになっている。

5、火葬件数について（年間火葬件数、稼働日数、一日当たりの件数）

平成24年度実績として2,607件、一日当たり8.7件。火葬のタイムテーブルについては、告別（15分）、火葬（75分）、冷却（15分）、収骨（15分）となっている。

以上の説明を受け、質疑に入りました。

質疑では、

1、斎場施設の工事費については、説明では、旧施設の解体工事を含めて約23億の工事費とのことであるが、平米単価はどうかとの問いに、

本事業については、PFI事業（提案事業）ということで、一括発注方式をとっていることから、平米単価をだすことは、事業の手法から難しいとのことでした。

なお、市が直営で、事業をおこなった場合の試算としては、15年間の管理運営も含めて、約70億程度を見込んでいたが、PFI方式により、最終、工事費約23億、管理運営費約23億で、計約46億となっているとの説明がありました。

2、炉の選定は、性能発注方式であると考えているが、炉の選定基準はどのようにしたのかとの問いに、

炉の選定については、排ガスの環境基準を満たすことを最優先に、炉を選定しているところであり、炉の形式については、特段の指示はしていないが、バグフィルターや再燃焼炉等の設備は、付随した施設になっているとのことでした。

3、施設（炉）の建設等については、性能重視で選定をしたのかとの問いに、

PFI事業以外の事業手法として、分割発注ということも考えられるが、一宮斎場の建設後、PFI方式により、事業を行っている市が増えてきていると聞いており、一宮斎場の建設事業に当たり、100ページにわたる仕様書をもとに、参加業者を募集して、選定をしていることから、仕様書の内容を満たすことができる業者が応募し、結果、現在の業者に決まったということでありました。

4、議会、市民等への説明については、どのような手順をとったのかとの問いに、

事業を進める中で、PFI法に基づいた議会の議決が必要なことから、実施設計等を行う際の予算については、議会に、報告・説明を行い、議決をお願いしているところであるとのことでした。

5、概要説明の中で、平成21年9月と平成22年3月に住民説明会を実施しているとのことであるが、説明会の際に、住民からはどのような意見があったかのかとの問いに、

基本的に、建設について反対するという意見は無かったが、旧施設については、煙突から黒煙がでていたので、そのことに対する苦情はあったとのことでした。

6、施設の運営で、1月1日と、友引日を休業日としているとのことであるが、休業日については、現施設が建設されてからなのか、それとも旧施設が運営されているときからなのかとの問いに、

従来から、1月1日と友引日を休業としており、現施設が建設されてからではないとのことでした。

7、火葬炉 13 炉の内、大型炉が 1 炉とあるが、その使用内容の説明を求めるとの問いに、大型炉については、超大型炉として、身長が、2.2 メーターまで、受け入れ可能な炉であるとのことでした。

8、平成 24 年度の汚物炉の火葬件数として、年間 14 件と使用頻度が少ないと思うが、その点、どうかとの問いに、汚物炉については、年間数百件はあると考えていたが、医療廃棄物ということで、処理されることもあり、件数は、少なくなっているとのことでした。

9、一宮市住民と市外住民の施設使用料（火葬料金）の違いはあるのかとの問いに、一宮市民の税金により、施設を建設し運営を行っていることから、市内と市外の施設使用料の差はあるとのことでした。

以上が質疑の主な内容であり、一宮市における視察の概要となります。

■総 括

視察については、時間的配分の厳しい日程の中、実施しましたが、市の担当職員による説明に対し、委員及び委員外議員から活発な質疑が行われ、全体的に充実した内容であり、十分に所期の目的を達成することができたと考えております。

今回の視察により得た内容については、今後の市政に反映させるとともに、市の発展につなげていきたいと考えております。

上記のとおり報告いたします。

平成 26 年 1 月 28 日
厚生文教常任委員会
委員長 堀口 武視



一宮市環境部 武藤部長 歓迎の挨拶



堀口委員長 挨拶



質疑応答



質疑応答



会場全景



澁谷副委員長 御礼の挨拶



館内視察



館内視察



一宮斎場前



一宮斎場全景